

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年5月13日現在

機関番号：34509

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2011～2013

課題番号：23720112

研究課題名（和文） 16・17世紀における縁起絵巻・掛幅絵の制作と民衆信仰の在り方に関する研究

研究課題名（英文） Research on the Production of 16th and 17th-century Illustrated Scrolls and their Influence on Folk Beliefs

研究代表者

日沖 敦子 (HIOKI ATSUKO)

神戸学院大学・人文学部・講師

研究者番号：30448708

研究成果の概要（和文）：

本研究では、2009年度より行ってきた檀王法林寺・西寿寺所蔵の掛幅絵の調査・研究を継続しつつ、掛幅絵の背面にある結縁者名の整理・分類を進め、17世紀の掛幅絵の制作背景、及びそれに付随して語り伝えられた説話や物語について検討し、民衆信仰の実態解明を目指した。研究期間内の具体的な成果としては、檀王法林寺所蔵「中将姫臨終感得来迎図」の検討を中心とし、寺院史料を用いてその制作背景と展開の様相について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This research continues my work from 2009 on the illustrated hanging scrolls in the collections of Dannouhourinji and Saijyuuji. By organizing the figures related to the scrolls, investigating the 17th-century background, and analyzing the various tales associated with them, I am aiming to elucidate the nature of folk beliefs at this time. The result of this period of research consists of my clarification of the circumstances surrounding the making of the *Chuujuuhime Rinjuukantoku Raigouzu* by using temple documents.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、日本文学

キーワード：当麻曼荼羅、中将姫、当麻寺、練供養、絵巻、奈良絵本、説話、お伽草子

1. 研究開始当初の背景

申請者は、主に室町時代から江戸時代前期を中心とした寺院ネットワークと文芸活動の関係について解明することを目的としている。中でも、室町時代から江戸時代前期の浄土信仰が、具体的にどのようなかたちで、民衆の間に浸透していったのか。中将姫説話の展開について調べを進めつつ、文芸生成に関わる根本的な問題として、在地で活動した漂泊僧らの実態について寺院文書を含む在地資料を精査しながら、具体的に検証していくという手法で研究を進めてきた。

2. 研究の目的

本研究は、室町時代から江戸時代前期に制作された縁起絵巻・掛幅絵の制作背景について検討し、これらの絵画を求めた民衆の生活と信仰の実態を明らかにすることを目的とする。特に、2009年度より行ってきた檀王法林寺・西寿寺所蔵の掛幅絵の調査・研究を継続しつつ、掛幅絵の背面にある結縁者名の整理・分類を進め、17世紀の掛幅絵の制作背景、及びそれに付随して語り伝えられた説話や物語について検討し、民衆信仰の実態解明を

目指す。

3. 研究の方法

本研究では、江戸時代初期における江戸幕府の宗教政策と袋中との関わりについて検討すると共に、袋中の全国的な足跡と活動状況を踏まえつつ、主に晩年、京都や奈良を中心とし、民衆を教導した活動の実態について検討する。袋中の足跡を確認しつつ、関連寺院の所蔵資料／史料を精査し、袋中と民衆の関わりについて調査を進める。研究の基本姿勢は、フィールドワークである。

4. 研究成果

23年度は『当麻曼荼羅と中将姫』（勉誠出版、2012年2月）刊行にあたり、その第一章に①「浄土憧憬—檀王法林寺蔵「中将姫臨終感得来迎図」をめぐって—」と題し、論文を執筆したほか、関連資料を新たに翻刻し所収した。また、②「在米の中将姫物語—享受の諸相—」（『説話文学研究』46号、2012年）、③「Unfolding Chujohime Lore: Following Leads from the Painted Life of Chujohime at the Taima Temple Nakanobo Cloister」（『Publishing the Stage: Print and Performance in Early Modern Japan』Center for Asian Studies University of Colorado Boulder、2011年）に研究成果を報告した。

これら一連の研究は、当麻寺に伝来する観経曼荼羅（当麻曼荼羅）にまつわる中将姫説話に関するもので、主に絵巻・掛幅絵といった形式で伝来する中将姫説話に関する研究である。特に、拙著第一章にまとめた論文①は、掛幅絵の制作の場を追究しつつ、当時の人々の暮らし、信仰形態について論じたものである。この研究は、檀王法林寺所蔵「中将姫臨終感得来迎図」という掛幅絵に関する論考である。新出伝本として、従来知られていなかった西寿寺所蔵本、ミシガン大学美術館所蔵本を提示した。個々の掛幅絵の制作に関する史料を精査した結果、中将姫の往生を描いたこの絵については、檀王法林寺の袋中に帰依した北出妙尊・嘉兵衛母子によって、元和7年（1621）に西寿寺所蔵本が最初に制作されたことが明らかとなった。さらに、それは当麻寺の来迎会を再現しようとしたもので、絵師（竹坊）は現地に赴き、法会の様子や伽藍や周囲の景観などもスケッチしたうえで描いたものであったこと、檀王法林寺所蔵本はその2年後、急逝した末弟の供養のために再び制作されたものであったこと、さらに檀王法林寺所蔵本と共に同寺に伝来した『当麻脚供養図記』の記述と共に、絵に描かれた中将姫説話は、袋中の著作『当曼白記』に通じる解釈

がなされており、しかも、描いた絵師（竹坊）もまた袋中と深い結びつきを持つものであること、既に紹介されていた誕生寺所蔵本、そして本研究で新たに所在が明らかとなったミシガン大学美術館所蔵本の存在は、北出家一族の周辺で作られ出された新しい来迎図が、同家を離れて広がっていったことを示唆するものであることなどを指摘した。以上論文①により、他に例をみない「中将姫臨終感得来迎図」は、近世前期における当麻曼荼羅信仰のひとつの興味深い事例として、注目すべきものであることを指摘した。

論文②は、ボストン美術館、ハーバード大学美術館での個人調査を行ったお伽草子『中将姫』の二伝本の紹介を行った。各伝本の特徴について論じ、位置付けについて考察した論考である。ボストン美術館には絵巻2巻、ハーバード大学美術館には絵巻1巻（元縦型奈良絵本、破本）が所蔵されているが、これまで一部でその存在は知られながらも未紹介の絵巻であった。

論文③は、2011年3月にコロラド大学で行われた研究集会「Publishing the Stage: Print and Performance in Early Modern Japan」での研究発表をもとにまとめた論考である。当麻寺中之坊所蔵『中将姫絵伝』（2幅）の紹介を行い、この掛幅絵に描かれた特異な場面である大蛇濟度の図像が、説経浄瑠璃『中将姫御本地』や青本『中将ひめ』、狂言本『当麻中将姫二代記』などに見られることを述べ、継母が蛇身になる展開に通じている点などについて論じた。

これらの研究成果を踏まえ、24年度も引き続き、絵画資料／説話・物語との関わりを意識しつつ、それらの文芸がどのような空間で求められ、制作されたかについて、調査／研究を進めていくこととなった。

24年度は、以下3点を具体的な目標とし、研究を進めた。

- (1) 京都・奈良にある袋中関連の諸寺（檀王法林寺、西寿寺、西方寺、袋中庵、念仏寺）に所蔵される掛幅絵の背面の調査から、結縁者名を整理・分類し、これまでの資料調査（文書や掛幅絵の箱書）に見られる名前と照合する。袋中と個々の人物を可能な限り具体的に検討する。
- (2) これまでの調査から明らかとなっている北出嘉兵衛らの町衆、及び（1）の調査で明らかになってきた町衆と袋中の関係について、寺院資料や袋中関連文献から具体的に検討する。
- (3) 袋中関連寺院にある掛幅絵や付属する文学的資料（絵解き台本や説話・物語を含

む資料)を調査し、17世紀の掛幅絵の制作及びそれに付随して語り伝えられた説話や物語について検討する。

24年度は、主に昨年度に続き、檀王法林寺・西寿寺での資料調査を継続しつつ、掛幅絵の背面にある記述の整理を進め、17世紀の掛幅絵の制作背景、及びそれに付随して語り伝えられた説話や物語について考察を深めた。その成果の一部として、仏教文学会シンポジウム「寺社参詣の展開と変容—中世から近世へ」(於専修大学、2012年12月8日)でパネリストとして「廻国の僧と民衆—布教と信心のかたち」というテーマで報告を行い、新出の浄土曼荼羅の紹介を行った。この成果は『仏教文学』38号に掲載される予定である。また、調査の過程で新たに明らかとなり、調査寺院の軸木から確認された一連の文書(「京都新聞」夕刊1面、2013年4月9日)については、公開講座「當麻曼荼羅と中将姫説話の諸相」(於奈良国立博物館、2013年4月20日)で一般に向けて、新出資料の紹介を兼ねて報告した。この内容については、『アジア遊学 寺社圏論のパーспекティヴ』(大橋直義・高橋悠介・藤巻和宏編、2013年12月刊行予定)に掲載される予定である。

このほか、新出のお伽草子「かみよ物語」の伝本紹介として「大阪府茨木市磯良神社(世話方七軒)蔵「玉之井の縁起」絵巻について」(『伝承文学研究』61号)をまとめたほか、就実大学シンポジウム「瀬戸内海の寺社縁起」(2012年11月10日)でパネリストとして「『頼浦観音堂縁起絵巻』の成立とその背景」というテーマで報告を行った。

今後も引き続き、絵画資料/説話・物語との関わりを意識しつつ、それらの文芸がどのような空間で求められ、制作されたかについて、調査/研究を進めていく。具体的には、浄土教絵画とその絵画に関連する説話・物語の関係性、特に、袋中周辺で制作された浄土教絵画を中心に、その制作にあたった絵屋竹坊についても、さらに調べを進めていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計5件)

- (1) 日沖敦子「大阪府茨木市磯良神社(世話方七軒)蔵「玉之井の縁起」絵巻について」『伝承文学研究』査読有、61号、2012年、118—135頁
<http://researchmap.jp/atsuko.h/>
- (2) 日沖敦子「書評と紹介 川崎剛志編『修験道の室町文化』」『山岳修験』2012年3月
<http://iss.ndl.go.jp/books/R000000000>

4-I024020640-00

- (3) 日沖敦子「在米の中将姫物語—享受の諸相—」『説話文学研究』査読有、46号、2011年、110—123頁
<http://iss.ndl.go.jp/books/R0000000004-I11255923-00>
- (4) 日沖敦子「毛髪で縫った曼荼羅—漂泊僧空念の物語—」『国士館論輯(国士館大学)』査読無、33号、2012年、1—43頁
<http://iss.ndl.go.jp/books/R0000000004-I023595465-00>
- (5) 日沖敦子「「尾張西国三十三所」巡礼札所のこと」『人間文化研究(名古屋市立大学)』査読有、16号、2011年、224—236頁
<http://iss.ndl.go.jp/books/R0000000004-I023453702-00>

[学会発表] (計7件)

- (1) 日沖敦子「廻国の僧と民衆—布教と信心のかたち」仏教文学会(シンポジウムパネリスト)、2012年12月8日、専修大学
- (2) 日沖敦子「『頼浦観音堂縁起絵巻』の成立とその背景」古代地域史フェスタ(シンポジウムパネリスト)、2012年11月10日、就実大学
- (3) 日沖敦子「大阪府茨木市磯良神社世話方七軒蔵『玉の井の縁起』絵巻について」茨木市文化財愛護会(招待講演)、2011年5月22日、茨木市生涯学習センター
- (4) 日沖敦子「毛髪で縫った曼荼羅 漂泊僧空念の旅」国士館大学国文学会(招待講演)、2011年11月10日、国士館大学
- (5) 日沖敦子「檀王法林寺蔵「中将姫臨終感得来迎図」にみる浄土憧憬」宗教史懇話会サマーセミナー、2011年8月25日、京都エミナース
- (6) 日沖敦子「檀王法林寺蔵「中将姫臨終感得来迎図」にみる浄土憧憬」日本宗教民俗学会、2011年6月11日、大谷大学
- (7) 日沖敦子「『ちごいま』の総合的研究—絵と画中詞：『ちごいま』絵巻の画中詞から」絵入り本研究集会(シンポジウムパネリスト)、2011年9月24日、名古屋大学

[図書] (計4件)

- (1) 日沖敦子『当麻曼荼羅と中将姫』勉強出版、2012年、454頁
http://bensei.jp/index.php?main_page=product_book_info&products_id=100066
- (2) 服部幸造/弓削繁/辻本裕成『中世<知>の再生 『月庵醉醒記』論考と索引』三弥井書店、2012年、434頁(133—166頁) <http://www.miyaishoten.co.jp/>

- (3) Keller Kimbrough/Satoko Shimazaki ed
『Publishing the Stage: Print and
Performance in Early Modern Japan』
Center for Asian Studies University of
Colorado Boulder、2011年、247頁(37
-54頁)

http://cas.colorado.edu/sites/default/files/images/stories/PDFs/hioki_atsuko_hr.pdf#search=%E6%97%A5%E6%B2%96%E6%95%A6%E5%AD%90

- (4) 日沖敦子『越中における『熊野の本地』絵巻の展開ー立山をとりまく文学史的環境の一事例としてー(富山県立山博物館調査研究報告書)』富山県立山博物館、2012年、47頁

<http://researchmap.jp/atsuko.h/>

[その他] (計1件)

- (1) 「軸木の中に袋中の名号 右京・西寿寺の「当麻寺供養図」」『京都新聞』夕刊1面、2013年4月9日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日沖 敦子 (HIOKI ATSUKO)

神戸学院大学・人文学部・講師

研究者番号: 30448708